



|| FOR THE RECORD ||

PURE BANERJEE

「人生は、単純です。
それを難しくするのが
人間なのです」

カルヤン・バネルジー氏は、1972年、インド・バピロータリークラブ（RC）に入会しました。インド工科大学カンプル校で化学工学の学位を取得し、現在、インドで最大手の農薬メーカーの一つ、United Phosphorus Limited（UPL）社の理事を務めています。1980年、バネルジー氏は第306地区（当時）のガバナーになりました。1995 - 97年度は国際ロータリー（RI）理事、2001 - 05年度ロータリー財団管理委員を務め、2011 - 12年度にはRI会長に就任します。

ビノタ夫人は現在、ソーシャルワーカーを務め、インナーホイールクラブの会員です。夫妻には、2人の子どもと4人の孫がいます。

『The Rotarian』のジョン・レゼック編集長は、アメリカ・イリノイ州エバンストンのRI会長エレクト室で、バネルジー氏に話を聞きました。レゼック編集長は、「バネルジー会長エレクトにお会いしてすぐにわかることがたくさんあります。まず、彼はどのような場合でも、誰よりも冷静であるということです。口調は穏やかですが、率直で、自分の使命をしっかりと把握し、そのことについて優しく語ります。会長年度に直面すると思われる複雑な課題について私が尋ねたところ、『人生は、単純です。それを難しくするのが人間なのです』ということをお話に出させてくれました」と話しています。

どのようにしたらRI会長になれるのですか？

私も知りたいですよ。私は、ロータリーの活動を信じる一人の善良な人間としてするであろうことを行ってきたまでです。一つのことは、また次のことへとつながっていくものだと思います。私はRIの会長になろうとしたのではなくて、良いロータリアンになろうとしたのです。

会長ノミニーに決まったことを知らされたとき、喜びを表わしましたか？

指名委員長のジョン・ジャーム氏からの電話で、「あなたが、委員会で選ばれました。ご承諾していただけますか？ お引き受けしていただけますか？」と言われたように思います。私は「Oh, my God!」と2回言ったような気がします。するとジョンに「Oh, my God!」と言うのはそれくらいにして、イエスカノーかを答えてくれませんか」と言われました。それ以来、彼に会うとそのときの会話を思い出します。私たちはそのことを何度か冗談の種にしました。今では、このとてつもなく大きな機会とチャレンジがとても楽しみだと感じるようになりました。

この組織で、何が最もいい仕事でしょうか？ あなたにとって会長職というのは最もいい仕事ですか？

何年も前のことになりますが、クラブ会長を務めたとき楽しかったのは確かです。1975年、ロータリーに入会してから3年後のことでした。1980年、ガバナーになりました。最初の挑戦でなることができたのですが、インドではガバナーになろうと思っても1回でなれるとは限らないのです。しかも、まだ38歳でした。私が生まれたのはインド東部のベンガルで、現在はグジャラート州、そのように申し上げることをお許しいただけるのならガンジーの州、はるか西に住んでいます。州も異なり、言葉も異なり、文化も異なります。それは大きな挑戦であり、大きな機会でした。ガバナー職を大いに楽しみました。私が最も楽しんだ役職の一つです。その後、国際協議会で研修リーダーを務めました。自分でも本当によくやったと思います。そこにはクリフォード L. ダクターマン、ロイス・アビー、ジョナサン B. マジニアベ、ロバート・バース、ルイス・ピセンテ・ジアイなど、後に有名になる素晴らしいロータリアンがいて、その

人たちはあっという間に、リーダーになり、R I会長にまでなりました。つまり、私はロータリーの真の指導者たちに初めて出会い、その時以来、彼らとは友人として親しく付き合ってきました。

R I理事になったことは、素晴らしい経験でした。インドでも多くの人たちが喜んでくれました。私はハーバート G. ブラウン氏とルイス・ビセンテ・ジアイ氏という2人の偉大な会長と一緒に活動して充実した時を過ごしました。その後4年間財団管理委員を務め、ロータリー100周年のときに任期を終えました。2005年にシカゴで開催された100周年を記念する国際大会での経験は、素晴らしいものでした。そこには、インドから、そして私の所属するパピRCからのたくさんの方が参加者がいました。

これらの経験はいずれも素晴らしいものばかりです。しかし当然のことながら、私は次年度を楽しみにしています。R I会長という名誉と、将来に向けてこの組織を、伝統を守りつつ発展させる機会に恵まれる、ロータリーの中で務めることのできる最高の仕事です。

特に世界が大きく変わりつつある今、とてつもなく大きな機会です。人々が話を聞く方法、人々のコミュニケーションの取り方、自分の考えを伝える方法……あらゆるものが、私がエンジニア1年生のころから今の立場になるまでの間にあらゆるものが変わりました。若い人たちはネットワーク作りの方法が違います。私が若い時代には、ネットワークは、必ずしも重要なものとは思われていませんでした。現在は、ネットワークが重要です。私はこの組織に変化をもたらすことを楽しみにしています。

あなたの会長年度に成し遂げたいこと3つを挙げてください。

まず、一人ひとりのロータリアン



「もし、皆さんが
自分自身のことを
もっとよく知れば、より
大きなことを
なし遂げることが
できます。
しかし、
世界の平和を
求める前に、
自分の心の平和を
求めることです」

に視点を戻すことです。ロータリーは地域社会から始まりました。そして地域社会は善良な人々によってだけでなく、家族によっても築かれています。どういうわけか今日の世界では、家族の概念が変わってしまいました。親は子どもとの時間を持たず、子どもは親との時間を持ちません。両親は夫婦の時間を持ちません。そこで私は、再び家族に焦点を当てたいと思います。

以前にも言いましたが、私たちはできるだけ21世紀にふさわしい存在であるべきだと言いたいと思います。私はロータリーに若い人を入れたいと考えています。FacebookやYouTubeなど、今の世代には今の世代のネットワークがあります。そしてそれを、私が注意深く見てました。

私たちは、早急に若い人たちを確保する必要があります。彼らはネットワークを好んで作りますが、私たちが彼らに接触しなければ、どこか違うところでほかの誰かとネットワークをつくるでしょう。私たちはまた、ローターアクトとロータリー青少年交換を強化する必要があります。

3つ目は、ロータリーの公共イメージについて取り組もうと思います。私たちはかつて、地域を基盤とした小さい組織で、自分たち自身の利益、興味、楽しみのために集まって、あちこちの地域社会のためにささやかな善行を施していると考えられていました。実際、かつてはそうでした。現在、ロータリーは異なる受け取り方をされています。「ロータリーは政府のように強く、親のように優しい」と言われています。これはロータリーを表す独特の表現です。

会長としての1年間で、最も大きな個人的な挑戦は何ですか？ 1年では短すぎますか？

とにかく、1年はあっという間です。でもロータリーは、自らの年度の計画を自分で立てさせてくれます。レイ・

クリンギンスミスR I会長と私は、頻繁に連絡を取り合ってきました。そして彼はたくさんの変革をもたらしました。私の仕事は、まずこれらの変革を理解して、それらが有効かどうかを見極めることです。

言うまでもなく、すべての変革が必ずしも完璧に機能するとは限りません。私はうまくいっていないものに目を向けて、もし、反省点があればクリンギンスミスR I会長と相談し、それから前進します。今、世界では、ビル・アンド・メリンダ・ゲイツ財団や世界保健機関(WHO)などの組織は継続性を求めています。彼らは、その都度、話し合う相手が代わることを望んでいません。そこで私たちは、変革のさなかにあっても継続性を保つようバランスを取らなくてはなりません。

例えば、理事会では毎年テーマが必要かどうかを議論しました。美しいロゴとそれを支えるための魅力的な文章を伴った素晴らしいテーマであるかもしれませんが、平均的なロータリアンはどのように考えているのでしょうか。ロータリーは私たちが今日、そうでありたいと望むような組織になるために、ロータリーは変わらなければいけません。小さな地域に根差した組織から、大きな国際組織への変化が起ころうとしています。変化は将来、当たり前のものになっていくでしょう。

次年度の会長テーマ「こころの中を見つめよう 博愛を広げるために」はどのようにして思いついたのですか？

インドあるいは東洋の精神哲学に少し関係あると思います。私たちはまず自らを見つめることから始めます。自らが変われば、世界が変わるのです。そのように信じたいと思います。「私は優れているのに、隣人はそうではない」と言うのは簡単ですが、私はそれが真実だとは思いません。私たちは、世界を正す前に、もう少しよく自らを見つめ直す必要があります。ですから、

まず、自分自身を見つめてください。そのようにして自分自身のこと、自分の長所を理解すれば、自らの計り知れない可能性に気付くでしょう。皆さんはその可能性を生かしていますか？もし、皆さんが自分自身のことをもっとよく知れば、より大きなことをなし遂げることができます。しかし、世界の平和を求める前に、自分の心の平和を求めることです。

ロータリーに関して、何かをすぐに変えることができるとしたら、何を变えたいですか？

私は、会員増強と慎重に向き合います。会員増強のための方法を変える必要があります。そのようなわけで、私たちは今の世代、彼らのニーズ、期待、物事への対処の仕方、どのようにして私たちの目標にその世代を巻き込むかに目を向ける必要があります。新しいロータリアンにとってロータリーの魅力は何でしょう。彼らはロータリーに何を期待しているのでしょうか。彼らの期待を裏切らないと思わせるものは何でしょうか。彼らは単なる社交クラブだと思っているのかもしれない

んが、私たちはそれ以上の存在です。彼らが入会する前に私たちのあらゆる活動を知ってもらう必要があると思います。おそらく私たちはまだ十分に話してはいないでしょう。

ロータリーとほかの奉仕団体の一線を画すものは何ですか？そしてその違いを、どのようにしてより明確にしたり、際立たせたりしようと考えていますか？

職業分類の原則と職業奉仕が特徴です。異なる職業の人々が集まっているということが一番の魅力です。それは私たちの最大の強みです。地域の事業および専門職務で最も成功した人たちがクラブの会員だったら、と想像してみてください。どれほどの影響を持つことでしょう。

ロータリアンにメッセージをお願いします。

ロータリーは、今日、世界で最も偉大な組織です。親睦と、変革、進歩、他者に仕え、他者の世話をし、平和のために活動する力を持ち合わせています。私たちは可能性を最大限に発揮し

ているでしょうか？もしそうでないなら、どのようにしようとしていますか？

あなたは謙虚で慎み深い人柄だと言われています。その表現は、ご自身のことを言い表していると思われませんか？

まず、妻に聞いてみる必要があると思います。彼女は私のことを一番よく知っています。慎み深くないときもあると思います。謙虚さとは、強さの要素であると思います。強い人だけが謙虚になることができるのです。強い人ほど、謙虚です。ガンジーが最もいい例でしょう。マーティン・ルーサー・キング・ジュニア（キング牧師）もそうです。彼らは私の模範です。みなさんには模範となる人がいますか？ガンジーは、謙虚さを持って強力な大英帝国に立ち向かった人物です。しかし彼は決して弱くはありませんでした。つまり、謙虚さは内面の強さから生まれるものだと思うのです。慎み深さも同じです。自分が持っているものを誇示しなくてもよいのです。自分の持っているものをひけらかすのは、自分の可能性を発揮できていないから。それが誇示したい理由なのです。私は自分が謙虚なのか、慎み深いのか、本当のところはわかりませんが、そうありたいと思っています。

Annotation

インナーホイールクラブ (Inner Wheel Club)

1924年、英国マンチェスターで、同国で初のロータリアン夫人による組織として創設された、イギリスに本部がある国際組織。現在、世界で102か国に約10万人の会員を有しているとされています。参加資格はその幅が広がっており、男性配偶者ならびに元ロータリアンの配偶者なども参加しています。「真の友情を推進する」「個人の奉仕の理想を奨励する」「国際理解を育成する」という3つの目標の下、月1回の例会をもち、チャリティーバザーなどの活動を行っています。日本には、札幌インナーホイールクラブがあります。



2011年1月に開催された国際協議会であいさつする、バネルジーR1会長エレクト夫妻